

研修に関する Q&A 柏谷祐子

Q1 自己紹介、研修時期、研修先、勉強内容

看護福祉学部看護学科 3 年 柏谷祐子

時期: 2 年時の 2 月中旬から 3 月上旬

研修先: アメリカオハイオ州 フィンドレー大学

勉強内容: アメリカの看護大学の授業内容、アメリカの小学校、老人ホームなどでの日本文化についてのプレゼン、アメリカの病棟見学

Q2 研修の志望動機

- ・アメリカの看護は最先端であると言われており、自分の目で日本とアメリカの違いを見たいと思ったこと
- ・一年生時の看護実習で人との関わりに難しさを覚えてしまったので、この研修を通して様々な人と関わり、少しでも苦手意識を減らしたいと思ったこと
- ・アメリカの文化に実際に触れて、自分から視野を広げたいと思ったこと

Q3 研修を準備し始めた時期

2 年時の秋頃

Q4 研修準備で大切なこと/県大内で準備すべきこと

ワールドカフェであらかじめ英語に慣れておくこと、「アメリカの看護」の前に、まずは「日本の看護」について知識を増やしておくこと、具体的に自分がなにを見たいのか明確にすること

Q5 研修費用はいくらかったか。出発までの準備費用と研修中の費用

約 20 万円 アメリカでは自分のお土産を買うこと以外お金を使う機会はほぼない。

Q6 準備する上で障害だったこと、どうやって乗り越えたか

プレゼンのパワーポイント作りに慣れておらず、先生に沢山手助けをしてもらい、乗り越えることができた。テスト期間とか準備が被り、どうしても十分な準備をすることが難しかったが、現地についてから現地の先生と多少見直すことができたのでなんとか間に合った。

また、自分の英語に自信がなく、最初はおどおどしてしまった。ジェスチャーを交えて自分の言いたいことを大きな声で言うことで相手が理解しようとしてくれ、コミュニケーションがとれるようになった。

Q7 研修が始まってから大変だったこと

- ・時差ボケで最初の方は眠気に襲われて大変だった
- ・水道の水が日本のものと違ったので、目に入って充血したり、お腹を壊したりした。
- ・現地の人の英語の説明を理解するのが大変だった。(中盤で耳が慣れてきて聞き取れるようになった)
- ・携帯でWi-Fiには接続できたが、パソコンでWi-Fiに接続できず、現地の学生に手伝ってもらいなんとかインターネットが使えるようになったこと(パソコンのインターネットが使えないとパワーポイントを作ることが困難だった)
- ・過密スケジュールで、なかなか復習をする時間がなかったこと

Q8 日本の大学との違い、どんな刺激を受けたか

日本の学校では先生が生徒に名指しで質問することが多いが、アメリカでは先生が生徒全員に問いかけ、手をあげて自ら発言し積極的に授業に参加していた。またプレゼンが終わった後、日本では質問をする人が多くはいないが、アメリカでは沢山質問が上がり、盛り上がった。

Q9 交友関係はどうだったか

フィンドレー大学に研修している日本人の学生さんと話し、フィンドレーでの暮らしぶりを知れた。インターネットに接続する際に手伝ってもらったアメリカ人の学生さんと仲良くなり、カフェで会った際に話をした。

日本に研修に来る予定である人に、英語のプレゼン内容や発音を指導してもらい、仲良くなれた。ホームステイ先の家族にもとても優しくしてもらい、良い思い出ができた

Q10 もう一度研修をやり直せるならどのようにしたいか

「日本の看護」について漠然と知るのではなく、どこの領域について知りたいか具体的に的を絞って勉強して、アメリカと日本との違いを知り、日本でどう活かしていけるか考えを深められるようにしたい

日常会話で使える簡単な英語のボキャブラリーを増やし、現地の人と自信を持って関わられるようにしたい

Q11 就職活動やその後のステップアップに研修経験をどう活かしたいか/活かしたか

海外に行き、視野が広がったので、様々な考えを持つ患者に対して偏見を持たず、考えを受け入れられるようになったと感じることをアピールする。

Q12 研修したい学生達にメッセージ

準備は少し大変でしたが、その分やり遂げた時の達成感が気持ち良かったです。私は今まで日本語で

もプレゼンをすることが苦手だと思っていましたが、「英語でプレゼンをできた」と言うことが自信になり、人前で発表することに対して前ほどの苦手意識は無くなったように感じます。

「人に何か伝えようとする時の姿勢」の大切さを改めて感じました。自分が相手に何かを伝えたいとき、誠実な態度で相手と向き合えば相手も絶対わかろうとしてくれるのだと身をもって感じました。今後の実習や学びでも生かせることが多かったです。是非参加してほしいです。

